

公益社団法人私立大学情報教育協会
令和4年度第1回基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 令和4年4月13日(木) 17:00から19:00
II. 場所 : 私情協事務局 (ZOOMによるTV会議)
III. 出席者 : 山名担当理事、井上委員、高木委員、片岡委員、今泉アドバイザー
井端事務局長、森下主幹

IV. 資料

2021年度私立大学教員授業改善調査の中間まとめ(案)

V. 議事内容

1. 私立大学教員授業改善調査の中間まとめ(案)の検討について
令和3年度第4回委員会で検討した方針に従って集計・解析した中間まとめの素案について「解析結果の説明(文章)を中心に検討を行った。
この議事概要では、表と図は省略して、中間まとめ(案)で修正した部分をアンダーライン(下線)で示している。

私立大学教員授業改善調査の中間まとめ(案)

I. 回答状況

193大学の内、143校回答(74%)、5,617人回答(調査対象44,694人) 回答率12.6%
47短大の内、30校回答(64%)、173人回答(調査対象542人) 回答率31.9%

II. 中間まとめ(下線部を修正)

1. 学修者本位の教育の実現を目指す対応・取り組み
- (1) シラバスや授業で「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にすることについて
「身に付ける能力の明確化、
大学教員、短期大学教員ともほぼ全員が意識している。」
- (2) ポートフォリオ等で理解度や成長度を把握し、対面や学修管理システム(LMS)等で個別に教育・学修指導を行うことについて
「個別最適な学びの指導、
大学教員の3分の2、短期大学教員の4分の3が意識している。」
- 3) TAやSAによる学修支援を対面や遠隔(ICT)で実施することについて
「TA・SAの学修支援、
大学教員、短期大学教員とも7割が意識していない。」
<説明文の表現検討>
モニタリング、グループ学修によるアクティブ・ラーニングの進め方などの相談・助言の支援に有効である。(この部分の表現を再検討する)
- (4) 授業中や授業後に学修者同士で授業内容を確認できるようにするため、話し合いを通して、教え合い、学び合う機会を対面やLMS等で提供することについて
「教え合い、学び合う「場」の提供、
大学教員の6割、短期大学教員の7割が意識している。」
- (5) 授業を社会課題等の解決に連動し、学修意欲の向上と主体性を促進することについて
「社会課題等の解決で学修意欲の向上と主体性の促進
大学教員、短期大学教員とも8割以上が意識している。」

- (6) 学修者の興味・関心のある科目を開設し、学内や学外で学修成果の発表・評価を行う「場」を設けて、対面や遠隔(ICT)で提供することについて

「興味・関心を引く科目で、

学修成果の発表・評価を学内外に設け提供

大学教員の5割、短期大学教員の6割が意識している。」

<説明文の表現検討>

学びに対する主体性を高めることが可能となる。(表現を検討)

- (7) 卒業後、社会人として役に立った授業体験を対面や遠隔(ICT)で紹介し、学びの重要性を気づかせることについて

「社会人から授業体験を紹介、学びの重要性を気づかせる

大学教員の6割、短期大学教員の7割が意識している。」

- (8) 学修者(海外留学生、障害者等)の環境に応じて、対面授業と遠隔(ICT)授業を行うことについて

「海外留学生、障害者等に応じた対面と遠隔(ICT)の授業実施、

大学教員、短期大学教員とも6割が意識している。」

- (9) 不安・悩みを抱える学修者に教職員が連携し、対面や遠隔(ICT)で個別に相談・助言を行うことについて

「教職員が連携し、不安・悩みを抱える学修者に相談・助言

大学教員の7割強、短期大学教員の9割が意識している。」

<説明文の表現検討>

・・・の4分の1程度と少なく、不安・悩みへの対応に大半が意識している。

・・・課題は、メンタルヘルスの対象となる学修者を如何に早く把握し、学修者のプライバシーに配慮しつつ、的確に相談・助言の支援体制を大学として構築していくことが課題となる。(表現を検討)

- (10) 学修者本位の教育、学修者の立場に配慮した取組みの重要性について

「学修者の立場に配慮した取組みの重要性

大学教員9割、短期大学教員ほぼ全員が意識している。」

<学修者本位の教育の実現を目指す対応・取組みの総括>

※ 特に修正は無い

2. ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応

- (1) 授業は対面を中心とするが、理解度・成長度に効果が期待できる場合は遠隔(ICT)によるオンデマンド・リアルタイム配信を積極的に導入することについて

「授業は対面中心、効果が期待できる場合はオンラインを導入

大学教員の8割、短期大学教員の7割強が考慮している。」

<説明文の表現検討>

特に情報科学系の教員は「非常に考慮している」に回答が35.1%、「考慮している」に回答が52.1%となっており、全体として8割強が考慮している。(表現を検討)

- (2) 事前学修を遠隔(ICT)で行い、対面で意見交換を行う反転授業の充実について

「反転授業の充実、

大学教員の4割強、短期大学教員の3割が考慮している。」

- (3) 企業・地域社会などの課題分析を遠隔(ICT)で行い、そのエビデンスをもとに対面で深い議論を行う問題発見・課題解決型学修を推進することについて

※ 特に修正は無い

- (4) 幅広い知識の獲得は遠隔(ICT)で行う一方、物事を多角的に捉える訓練のためのアクティブ・ラーニング(AL)は対面で推進することについて
「幅広い知識の獲得は遠隔(ICT)、ALは対面で推進は、
大学教員、短期大学教員とも5割強が考慮している。」
- (5)SDGs等未知の問題解決の演習は対面で行い、時間と場所の制約を受けない意見交換・解決策の発表・評価は遠隔(ICT)で推進することについて
「問題解決の演習は対面、
意見交換・解決策の発表・評価は遠隔(ICT)で推進は、
大学教員、短期大学教員とも3割が考慮している。」
- (6) 学びの成果を地域社会や企業に応用・活用する社会実装教育を、対面と遠隔(ICT)の両方で推進することについて
「学びの成果を地域社会や企業に
応用・活用する社会実装教育の推進は、
大学教員の4割、短期大学教員の3割強が考慮している。」
- (7) 学びの国際通用性を高めるため、対面と遠隔(ICT)でグローバルな国際連携教育を推進することについて
「学びの国際通用性
対面と遠隔(ICT)でグローバルな国際連携教育を推進は、
大学教員、短期大学教員とも3割が考慮している。」

<説明文の表現検討>

遠隔(ICT)授業により、学修者の学びの自由度が向上し、学修者は学びのデザインの主体となりえる。グローバル人材の育成には、学生主体の柔軟な学びの環境を大学が整えることが必須となる。海外連携型協働学習(COIL)は、授業内容の交渉、教授法のすり合わせ、学生の学力、言語運用能力のギャップの有無など、シビアな評価に授業をさらすことになる。

世界の土俵に乗るのか、引きずり出されるのか、覚悟をする必要があるので、自大学の教育の質を海外の大学と比較する中で、授業の国際通用性を検証し、学びの通用性の確保を目指した国際連携教育を推進していくことが期待される。

※ 文章に区切りをいれて表現を工夫する。

- (8) デジタル技術(VR、シュミレータ等)で実験・実習・実技の擬似体験を訓練し、対面で安全な実体験教育を実施することについて
「デジタル技術で擬似体験を訓練し、
対面で安全な実体験教育を実施は、
大学教員、短期大学教員とも3割近くが考慮している。」
- (9) 長期インターンシップなどの社会体験教育は、対面と遠隔(ICT)の両方を推進について
「長期インターンシップなどの社会体験教育、
対面と遠隔(ICT)の両方を推進
大学教員、短期大学教員とも2割が考慮している。」
- (10) 学びの成果の発表・評価を、学内では対面で、学外では遠隔(ICT)で行うコンペティションを推進することについて
「学びの成果の発表・評価、
学内では対面、学外では遠隔(ICT)のコンペティションを推進は、
大学教員、短期大学教員とも3割強が考慮している。」
- (11) ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と遠隔(ICT)を組み合わせ

た新しい教育の対応について

「学修の質の向上、

対面と遠隔(ICT)を組み合わせた新しい教育の対応

大学教員の8割、短期大学教員の7割強が考慮している。」

<ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と

遠隔(ICT)を組み合わせた新しい教育の対応の総括>

<説明文の表現検討>

文章の中の「重要性を意識している」の」1か所を削除した

今回は「中間まとめ」について全体の流れと表現を検討した。

次回は内容をさらに精査して中間まとめとしたり、各委員にも次回に向けて内容と表現の見直しと検討をいただくことにした。

また、グラフについて、委員から色の見直しや円グラフを棒グラフにしてはどうかとの意見があり次回に向けて検討することにした。

2. 次回の委員会

令和4年4月27日(水) 18:00とした。